

# アラスカ トレッキング

所沢市 羽取 照夫（妙高市 出身）

旅行大好きな私ですが、今回は縁あってアラスカトレッキングツアーに結婚三十周年もかねて夫婦で参加しました。平成四年七月十五日〜二十二日までの八日間のツアーで企画案内は日本アルペンスキー学校の植木毅氏にガイドをもらいました。この頃はアラスカに行くには大阪空港から英国航空の直行便でアスカレジに向いました。

リエスカに着きました。ここはアラスカ最大のスキー場で、ワールドカップも開催された所と聞きました。アリエスカ・ナゲット・インホテルに宿泊することになりましたがアラスカ杉をふんだんに使ったロッジ風の建物で

大自然の現代に残された北米大陸の原野、原生林まじわる美しい花々と真白な氷河に覆われた山々、そして最高峰六一九一m マッキンレー山に期待して出発しました。メンバーは全国から男二名女六名の計八名です。日本では真夏ですがアラスカは八月中旬から九月頃でしょうか、午後の十一時近くでも白夜で、まだ明るさがのこっています。アスカレジから車で一時間ほどのア



アリエスカ・ナゲット・イン。ホテルにて



タナーゲンパスのお花畑



クロークリーク登山

ちよつとしたヨーロッパのアルプスに行ったような雰囲気です。

第一日のトレッキングはターナゲンパスのお花畑です。アラスカの夏は海拔0mからヤナギランが咲き乱れその上にはワタスゲ、クロユリ、ハクサンフウロなどが咲き競っています。日本では三千m級の山で見られない高山植物が五百m以下で咲き乱れていました。

第二日はポーターズ氷河歩きと氷河湖の見学に行きました。湖水に流れ出た巨大な氷塊が「グレイジャー、ブルー」と呼ばれる。氷河独特の青さに美しく輝く氷河の世界が手のとどく目の前にあることに驚くと共に氷河の上を歩くことができました。

第三日はクロークリーク登山とクロークリーク金鉱での砂金探しを楽しみました。千m級のトレッキングですが、日本の二百m級の山々に登山するのと同じ装備です。登山靴を履きセーターを着込み防寒具を着用してのトレッキングです。登山道でないガレ場を登り残雪を一步一步と踏み込んで頂上をめざしました。ホテルで用意したサンドイッチの昼食を頂上で食べて下山になりましたが雪の上を下るといこうとはいかに大変か思い知りました、何回も滑り転んで雪面を滑降しました。その後ゴールドラッシュの夢の跡とも言われるクロークリーク金鉱にて砂金探しを楽しみました。

第四日は、キナイリバーのラフティングを初めて経験しました。大型ゴムボートでの溪流下りはスリル満点のスポーツである、完全両具の装備で水飛沫を浴びながら右に左に川を下り途中ではムース親子が周囲を警戒しながら泳ぎ渡っていた。又アメリカの国鳥である白頭鷲を確認し、さらに山羊が岸壁を駆け上るのを見ながらのラフティングに挑戦しました。



キナイリバーにてラフティング

原が七百八十平方キロに渡って横たわり白い山々が氷原の上にそびえている。この氷原から流れ落ちる氷河が遊覧船の前で大音響を轟かせて海岸水原として氷壁が活発に崩れ落ちてくるのを目のあたりにして大感激しました。又壮大なフィヨルドの美しい景観の中でラッコ、アザラシ、トドが群生しており、そしてイルカの動物が各々のテリトリーで悠々自適に営んでいた、さらに切り立つ崖には多数の滝とその付近を飛び交う可愛く美しいパフィンや白頭鷲を見ることが出来ました。スワーズ港に帰港後は港にあるレストランでキン



マッキンリー山フライトのセスナ

グサーモン、カニ、タラなど海の幸の夕食となりました。

第六日はいよいよ最終日、マッキンリー山頂フライトです。花、山、川海ときて空となりましたが、目的地はデナリ国立公園エリアにある北米大陸最高峰のマッキンリー山です。これが気象条件と合わない他希望通りのフライトとはいかないのですが、今回旅行の最後に期待通りフライト可能との連絡が空港からあり、アンカレジに向いカードウッド空港より水陸両用ジェットのセスナ四人乗りで米国人機長（個人所有、元日航パイロット）で奥さん（元日航客室乗務員）の手作り昼食も用意してもら



マッキンリー山

い胸もわくわく機上の人となった。アラスカ杉が一面の生い茂る中に湖が四百〜五百個もあり五十〜六十kmに渡る大氷河を眼下にししながら見ながらマッキンリー山に向ってフライトした眼前に六一九四mの山が迫ってくる雄大な自然のすばらしさに言葉もありません。無我夢中でカメラのシャッターを切ったが何枚撮ったかわからない位フィルム交換をした、又マッキンリーの帰りに機長が個人的に所有している湖に着水してくれるサブライズがあり山小屋での昼食でした。ここではじめて水陸両用の意味が理解できると共に湖から離陸する不安と驚きは私にとつてすべてがはじめての経験でした。

最後の晩にはホテルの皆さんやトレッキング、ラフティング、クルージング等と同行していただいたスタッフの全員が参加して歓送会を盛大にさせていただきました。アラスカという広大な原野の中で自然を満喫することが出来ると共に地元の人々の心暖まるもてなしを受けて帰国することになりました。